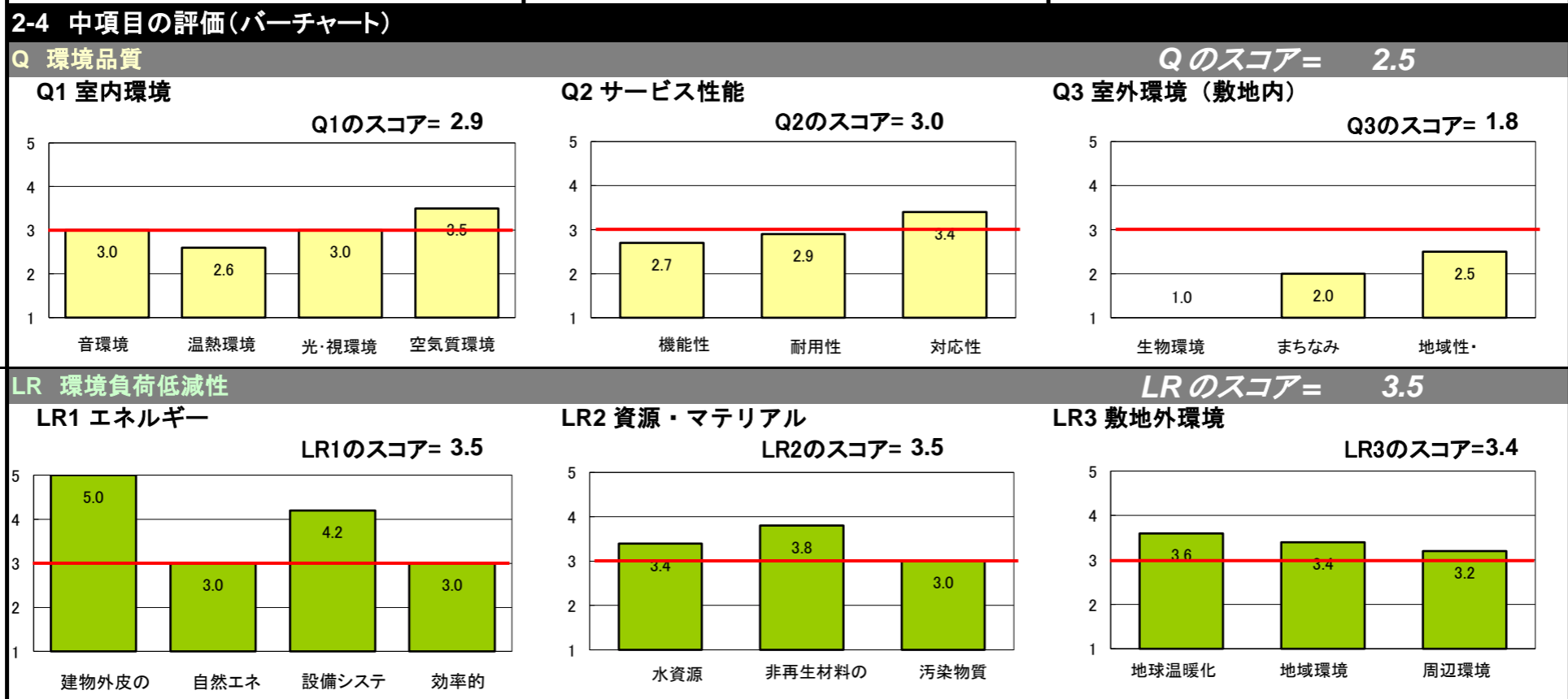
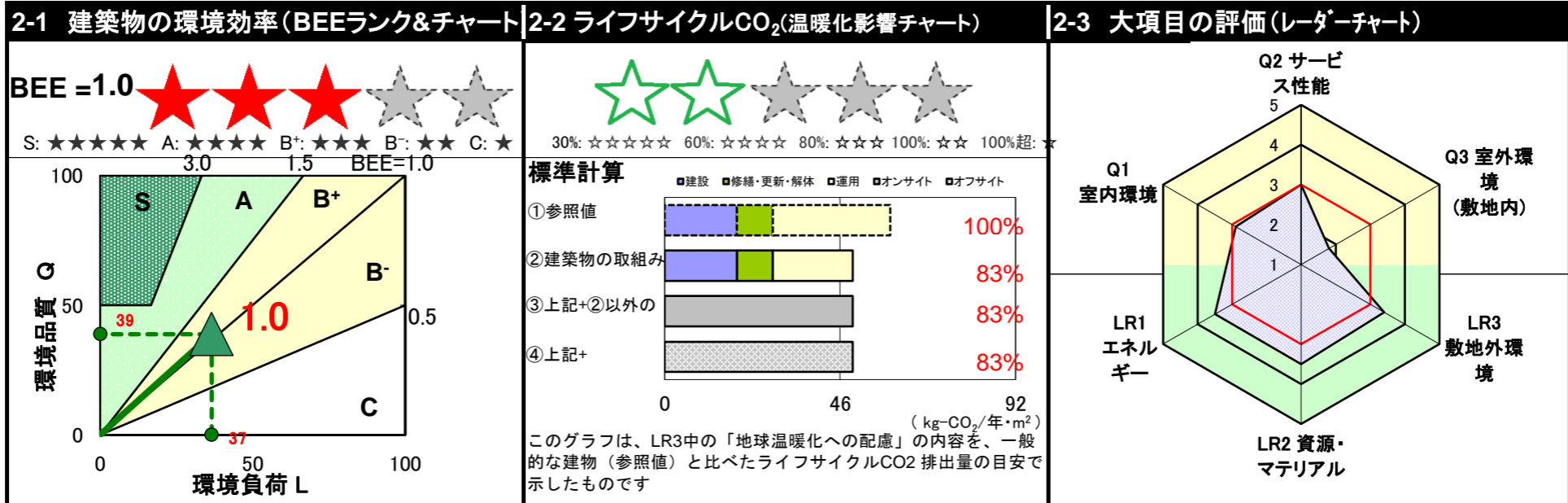
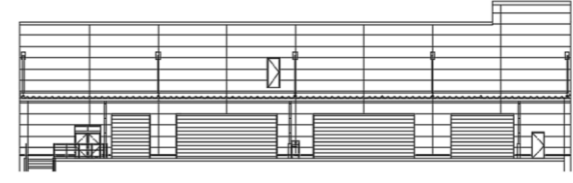


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社近鉄ロジスティクス	階数	2
建設地	愛知県北名古屋市	構造	S造
用途地域	都市計画区域 市街化調整区域	平均居住人員	18人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年10月13日
敷地面積	2,883 m ²	作成者	花井 博文
建築面積	1,628 m ²	確認日	2017年10月13日
延床面積	2,926 m ²	確認者	花井 博文



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.6</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>7.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.4</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数			全体	
		Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境													2.9	
1 音環境													3.0	
1.1 室内騒音レベル														
1.2 遮音														
1 開口部遮音性能														
2 界壁遮音性能														
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														
1.3 吸音														
2 温熱環境													2.6	
2.1 室温制御														
1 室温														
2 外皮性能														
3 ゾーン別制御性														
2.2 湿度制御														
2.3 空調方式														
3 光・視環境													3.0	
3.1 昼光利用														
1 昼光率														
2 方位別開口														
3 昼光利用設備														
3.2 グレア対策														
1 昼光制御														
3.3 照度														
3.4 照明制御														
4 空気質環境													3.5	
4.1 発生源対策														
1 化学汚染物質													内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用	
4.2 換気														
1 換気量														
2 自然換気性能														
3 取り入れ外気への配慮														
4.3 運用管理														
1 CO ₂ の監視														
2 喫煙の制御														
Q2 サービス性能													3.0	
1 機能性													2.7	
1.1 機能性・使いやすさ														
1 広さ・収納性														
2 高度情報通信設備対応														
3 バリアフリー計画													独自	
1.2 心理性・快適性														
1 広さ感・景観 (天井高)													執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースの確保	
2 リフレッシュスペース														
3 内装計画														
1.3 維持管理														
1 維持管理に配慮した設計														
2 維持管理用機能の確保														
2 耐用性・信頼性													2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振														
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														
2 免震・制震・制振性能														
2.2 部品・部材の耐用年数														
1 躯体材料の耐用年数														
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													②	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													床:タイルカーペット20年、壁:ビニルクロス20年、天井:化粧石膏ボード30年	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														
6 主要設備機器の更新必要間隔														
2.4 信頼性														
1 空調・換気設備														
2 給排水・衛生設備														
3 電気設備													②	
4 機械・配管支持方法														
5 通信・情報設備														

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	②	階高=3.9m以上 壁長さ比率=0.14	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39	-	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.77	3.0	5.0	0.03	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.27	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI _m =0.68	3.0	4.2	0.42	-	-	4.2
4 効率的運用				0.2	3.0	0.28	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			自動水栓、節水型トイレの使用	3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.8	0.63	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	タイルカーペット、陶器質タイル、再生クラッシュラン	3.0	5.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGS+PB、OAフロアの採用	3.0	5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2排出率=83%	-	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	3.4	0.33	-	-	3.4
2.1 大気汚染防止			ガス燃焼機器を使用しない	-	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		チェックリストの項目の過半を満たし、広告物照明を設置しない	-	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)株式会社近鉄ロジスティクス・システムズ 名古屋営業

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:7.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) 株式会社近鉄ロジック

計画上の配慮事項	
総合	<p>建物利用者の快適な生活環境を維持するため 安全性の面からはF☆☆☆☆の内装材を使用している。 リサイクル材の利用、節水型機器の使用は資源の有効利用につながる。</p>
Q1 室内環境	<p>内装材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用</p>
Q2 サービス性能	<p>執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースの確保 主要内装仕上げ材は耐用年数の長い物を使用 階高=3.9m以上確保 壁長さ比率=0.14</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>できる限り緑地を設けた</p>
LR1 エネルギー	<p>BPI_m=0.77 BEI_m=0.68</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>自動水栓、節水型トイレの使用 躯体材料以外にリサイクル材を使用 躯体と仕上材が容易に分別可能 再利用できるユニット部材の使用</p>
LR3 敷地外環境	<p>LCCO₂排出率=83% ガス燃焼機器を使用しない 光害対策ガイドラインチェックリストの項目の過半を満たし、広告物照明を設置しない</p>
その他	